

家庭

教 科	科 目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
家庭	保育基礎	2	2年次・E1群 3年次・I2群	自由選択
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
保育基礎（実教出版）				2年次に選択履修

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
保育の意義や方法、子どもの発達と生活の特徴、子どもの福祉や文化について理解し、関連する技術を身に付け、保育や子育て支援に寄与する資質・能力を養う。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付ける。子どもの発達の特徴、生活と保育に関する知識を身に付ける。	子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めたうえで、課題を見いだし、その解決を目指し、工夫し創造する能力を身に付ける。	子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していかうとする実践的な態度を身に付ける。

2 学習計画と観点別評価項目

学 習 の 年 間 計 画	学期	学習内容（単元・項目）		月	学習のねらい	評価の観点
	1 学 期	第1章 子どもの 保育	(1)保育の意義 (2)保育の方法 (3)保育の環境	4	・保育が人間形成にどのようにかわるかを考える。 ・保育者観についての考察を深める。 ・子どもを取り巻く社会環境の変化や今後の保育の課題について理解する。	1 2 3 1 2 3 1 2 3
		第2章 子どもの 発達	(1)子どもの発達の特徴 (2)子どものからだの発達 (3)子どもの心の発達	5	・乳幼児期は人の発育・発達において大切な時期であり、共通性もあるが、個人差もあることを理解する。 ・心の発達の土台となる愛着関係について学び、親子関係の形成と人間関係の広がりについて理解する。	1 2 1 2 1 2
		第4章 子どもの 文化	(1)子どもの文化の意義と支える場 (2)子どもの遊びと表現	7	・児童文化財や児童館などが子どもの健やかな発達とどのように関係があるのか理解する。また、それを実際に制作し表現活動の重要性などを理解する。	1 2 2 3
	2 学 期	第3章 子どもの 生活	(1)子どもの生活と養護 (2)生活習慣の形成 (3)健康管理と事故防止 ○保育実習①	9	・子どもが心身の健康を保つための保育の技術を身に付ける。 ・乳幼児期の栄養の特徴を理解する。 ・子どもの身体的特徴をふまえ、安全で快適に生活するための衣服や育児用品を選択する力を養う。	1 2 3 1 2 1 2
			○保育実習②	10 11 12	・子どもの発達に即した適切な生活習慣とその援助について考察する。 ・子どもの健康管理や事故防止について健康状態の観察や事故の実態から対処方法や予防方法を理解する。	2 3 2 3
3 学 期		第5章 子どもの 福祉	(1)子ども観 (2)子どもの福祉 (3)子育て支援 ○保育実習③	1	・時代の変化と共に、子どもを権利の主体として尊重する考え方が世界で共有されつつあることを理解する。 ・児童憲章や児童の権利に関する条約などを通して、児童福祉の基本的な考え方を理解し、子どもの幸せとは何かを考える。	1 2 1 3 2 3 2 3
				2	・地域や社会で支える子育て支援の具体的な場や制度について理解する。	
				3		

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

学 習 評 価	観点	1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
	規 準	○保育に関する基本的な知識を習得できたか。 ○保育の意義や保育者の役割を理解しているか。 ○保育実習で適切に子どもと関わることができるか。	○子どもの健全な成長に関する諸問題の解決について考え、適切な判断ができるか。	○子どもを取り巻く社会環境の変化を理解したうえで、子どもの健やかな発達や保育に寄与していかうとする実践的な態度が身に付いているか。
	手 段	・ノートの記述 ・定期考査	・ワークシートの記述 ・実習状況の観察	・授業中の発言 ・レポートの記述 ・実習状況の観察
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		・定期考査を年3回実施する。 ・授業や実習に取り組む態度、提出物や作品、保育実習の様子やレポートなど、総合的に評価する。	
学習上の留意点	・授業への出席、授業態度、作品やノートなどの課題の提出状況等、平常の取組が重視されるので、授業や実習に意欲的に取り組み、提出物は期限を守って必ず提出すること。 ・ワークシート等に真剣に取り組む、自分の考えや意見を述べるができるようにすること。			